

## ○税と社会保障一体改革法が成立

「税と社会保障の一体改革法」が成立しました。消費税の増税で国民の皆さんに負担をお願いすることとなるだけに、とても辛い思いです。しかし、一方では、法律が出来たことで、日本は、無責任な借金財政から体勢を立て直し、健全な財政運営を目指す国家だという意思表示が出来たのだと思います。そのことが、国際的な国の信用につながり、将来の危機の回避の第一歩になると信じています。消費税を上げれば選挙に勝てない、というジンクスを恐れ、安定政権であった小泉政権をはじめ、歴代の政権が先送りしてきた課題です。野田政権も、離党者が続出し満身創痍になりました。結果は後世の歴史的評価に委ねるしかないとすれば、酷な話だと思えます。何とか、今、この時点で、国民の皆さんにご理解をいただきたいと心から願っています。

## ○国会最大の山場は特例公債法

9月8日に最終日を迎える国会は、この後、特例公債法(赤字国債発行の許可)と衆議院の定数格差是正と削減の法案をめぐっての攻防になります。特に、特例公債法の問題については、ねじれ国会になってから、国会の会期末には毎年繰り返されてきた話です。野党は、法案に賛成して欲しかったら総理大臣の首を差し出せと主張します。これまで与党は、野党が反対してこの法案が通らなければ、予算の執行が滞り、公務員の給与が払えなくなったり、公共事業がストップする恐れがあると判断して、泣く泣く内閣の総辞職に追い込まれてきました。だから総理大臣が一年交代でしかなかったのです。今回は、「総理を首にする」だけではなく、国会を解散も要求しています。

一方で、私達閣僚は、それぞれの責任の中で国会に提出した法律案の成立に向けて野党の理解を得るべく説明の努力を続けています。現状、提出した法案の成立は50%に達していません。私の担当分野では、防災の基本法改正や新型インフルエンザ対応の法案については成立をしました。

しかし、もう一方で、行政改革の目玉である公務員法の改正、独立行政法人改革の通則法の改正などの重要法案がたなざらしになっています。話し合いの糸口を見つけること。辛抱、辛抱。いずれにしても、精一杯頑張るのみです。

## ○災害は、現場主義

紀州地域の台風災害以降、栃木や茨城の竜巻被害、北九州や宇治・大阪の集中豪雨など、災害は、情け容赦なくやってきます。世界中で洪水や干ばつが見られる異常気象で、日本でも熱帯のスコールのような極端な豪雨や雷に見舞われることが多くなってきたと言われます。

雨と雷のまだ収まらぬ中で、熊本の阿蘇市を現地視察しました。時間50ミリと言う雨でも、周囲の音が聞き取れないくらいの土砂降りだったのに、100ミリに達する雨量は、想像がつかないくらい大変なものだと実感しました。ここでは土砂崩れで多くの命が奪われました。火山灰の積もる阿蘇外輪山のふもとに立てられた家屋が、木々の並ぶ山並みを根こそぎ引きずり込むような山崩れに飲み込まれている姿に、言葉を失いました。夜中の2時から6時ごろまで降り続いたという雨が、早朝の山肌を次々と崩し始めたと言います。警報が出たのが夜中。同報無線は、豪雨の音にかき消されてしまったと言います。消防団が「逃げろ」と各戸にふれたにも関わらず、多くの犠牲を出してしまつたと、現地の皆さんは、悔し涙に暮れていました。

気象庁は、局所的な危険をピンポイントで予測できないものか。いざという時の情報手段は、同報無線だけでなく、他にも様々な情報手段を備えることが必要だと言うこと。普段の訓練中で培われる地域の絆などが大事だと言うことなど、現場からの反省が、次の災害に備える原点となります。現場に同行する各省の担当者には、現場の自治体に一緒に寄り添って柔軟な支援対応をすること、普段の手続きを省いてでも一刻も早い対応をすることを強く指示しています。

中川正春